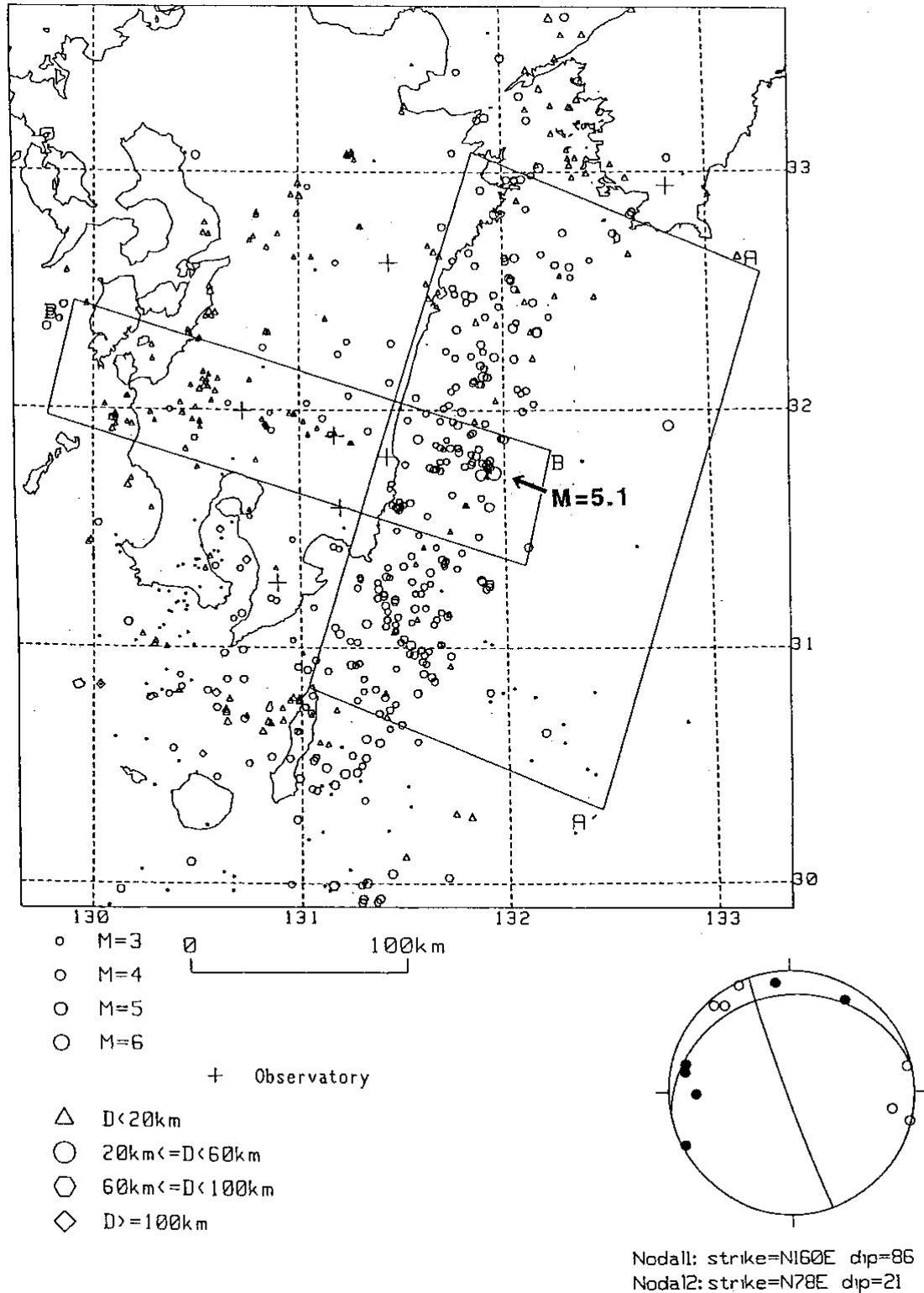


9-1 九州東・南部の地震活動（1995年11月～1996年5月4日）
Seismic Activity in the Eastern and Southern Kyushu District
(November, 1995-April, 1996)

京都大学防災研究所
地震予知研究センター宮崎観測所
Research Center for Earthquake Prediction
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図に宮崎観測所の観測網（日向灘地殻活動総合観測線）に桜島火山観測所のデータを加えて求めた1995年11月～1996年5月4日の震央分布を示す。主な地震活動は、九州の東海岸に沿う日向灘地域と霧島火山域の東西及び薩摩半島南端から海域にかけてのやや深発地震である。5月2日14時45分に宮崎観測所の東方約50kmの日向灘中央部でM5.1（JMA）の地震が発生した。同じ地域で2月5日にもM4.3があり、その後散発的活動が見られた。余震は少なく、直後に数個観測されただけである。都井岬沖の131°55'E, 31°15'N附近では、3月17日に約30分間にM3前後の地震が5個続けて発生したが、その前後には活動が見られない。九州～パラオに沿う震源の線状分布の有意性は未定である。第2図は第1図の四角で囲った日向灘地域の地震について、海岸線に平行なA-A'面の深さ分布を示す。日向灘北部の震央、深さのばらつきは、観測点間隔の粗さによる震源決定精度の低さに起因すると考えられる。第3図は第2図と同じA-A'面の時空間分布を示す。第4図・第5図は霧島火山域を中心とする東西方向の面（第1図B-B'）の深さ分布と時空間分布を示す。

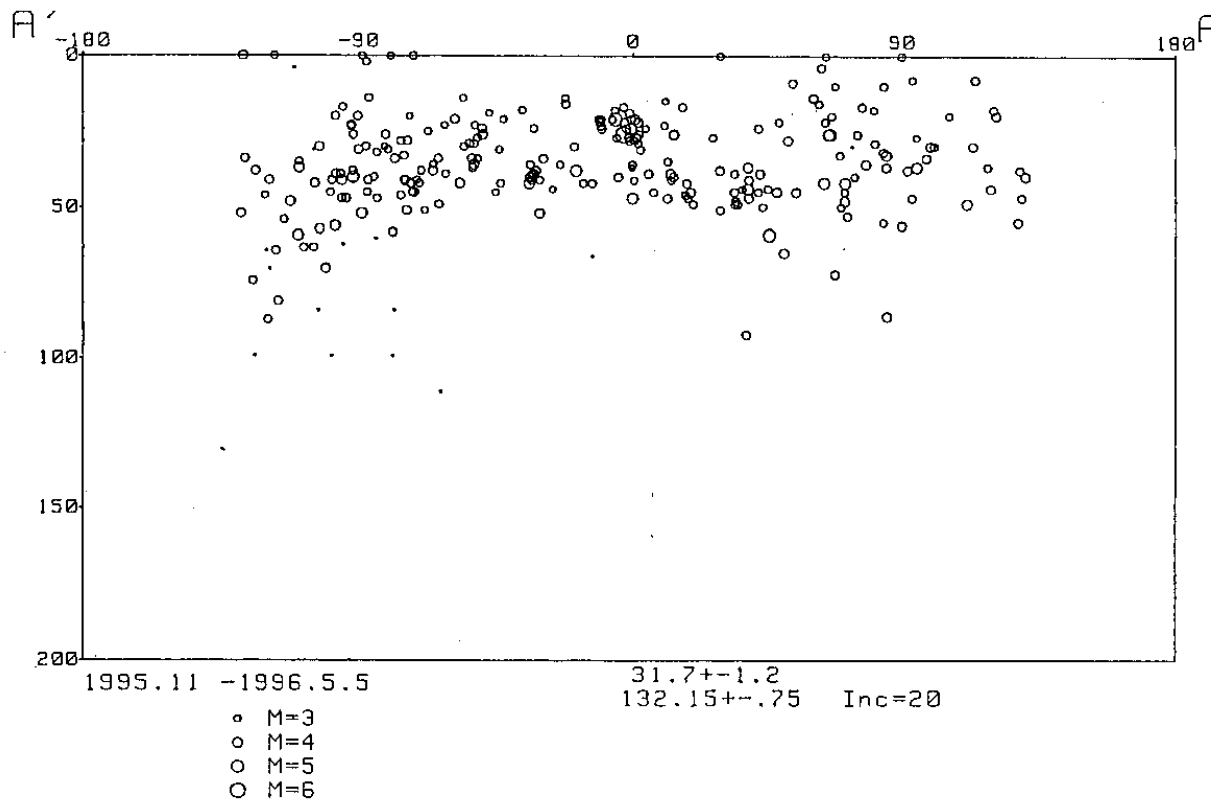
MCO 1995.11.1 - 1996.5.5



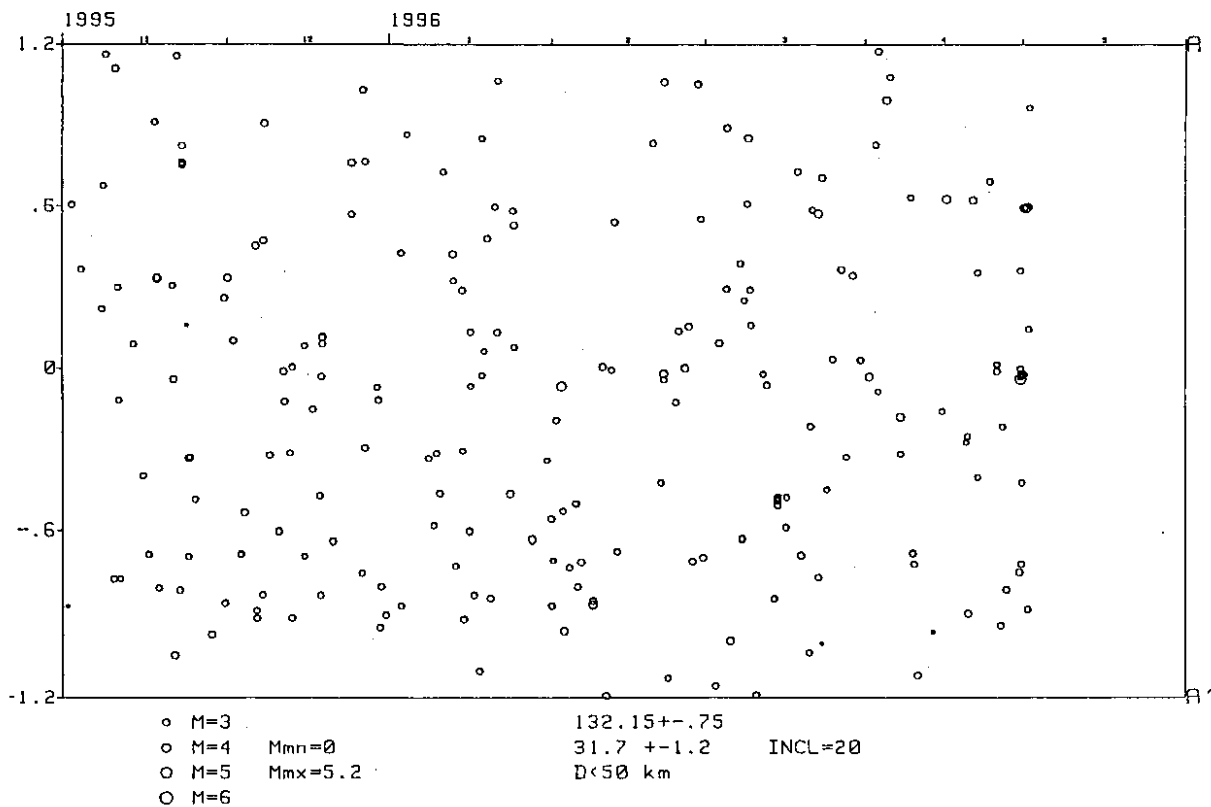
Focal mechanism of the earthquake on May 2, 1996
 (lower hemisphere of equal area projection)

第1図 宮崎観測所の観測網（日向灘地殻活動総合観測線+桜島火山観測所パソコン観測網）による震央分布（1995年11月～1996年5月4日）右は1995年5月2日の地震（M=5.1）の発震機構。

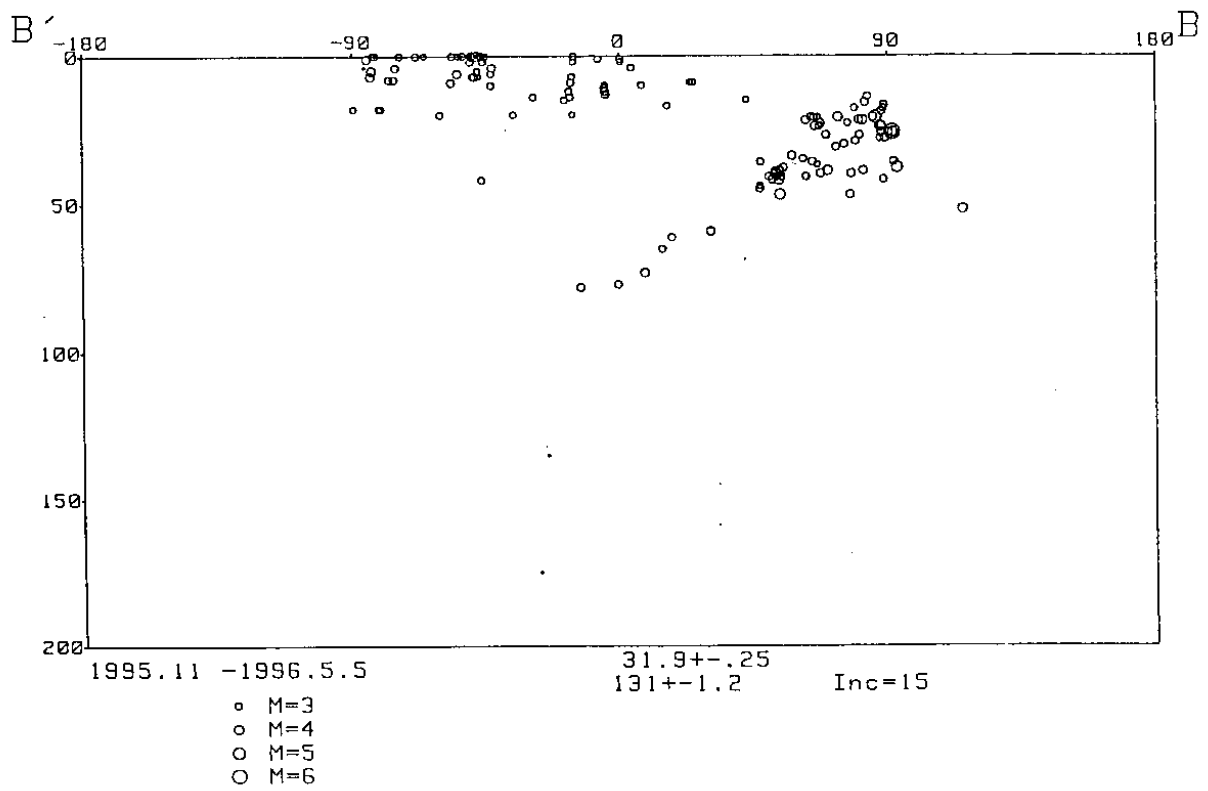
Fig.1 Epicentral distribution (November,1995-April,1996) and focal mechanism of the earthquake on May 2,1996 (M=5.1) (lower hemisphere of equal area projection).



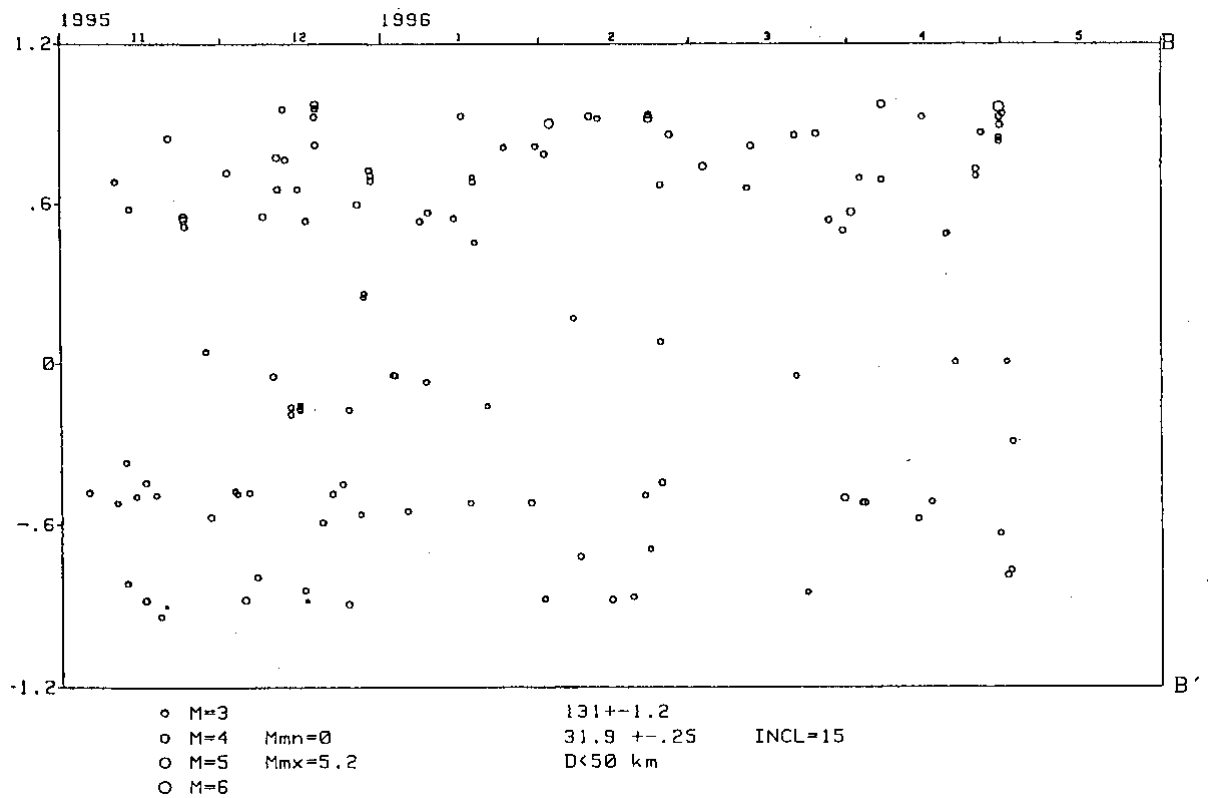
第2図 日向灘地域の N20°E-S20°W 面 (第1図 A-A') の深さ分布
 Fig.2 Hypocentral distribution in Hyuuganada region. Projected plane is A-A' in Fig.1.



第3図 日向灘地域の N20°E-S20°W 面 (第1図 A-A') の時空間分布
 Fig.3 Space-time plot of the earthquakes in the rectangle region A-A' in Fig.1.



第4図 霧島火山域を中心とする N105°E-N75°W 面 (B-B') の深さ分布
 Fig.4 Hypocentral distribution projected on the B-B' in Fig.1.



第5図 霧島火山域を中心とする N105°E-N75°W 面 (B-B') の時空間分布
 Fig.5 Space-time plot of the earthquakes projected on the B-B' plane.